

海女集落の景観構造と景観特性を 解き明かす調査研究

昨年は鳥羽市立海の博物館で「鳥羽の海女小屋」展も開催！



三重大学大学院工学研究科建築学専攻・准教授
大井隆弘 OHI, Takahiro
[URL] <https://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/3158.html>



海女集落の景観調査って？

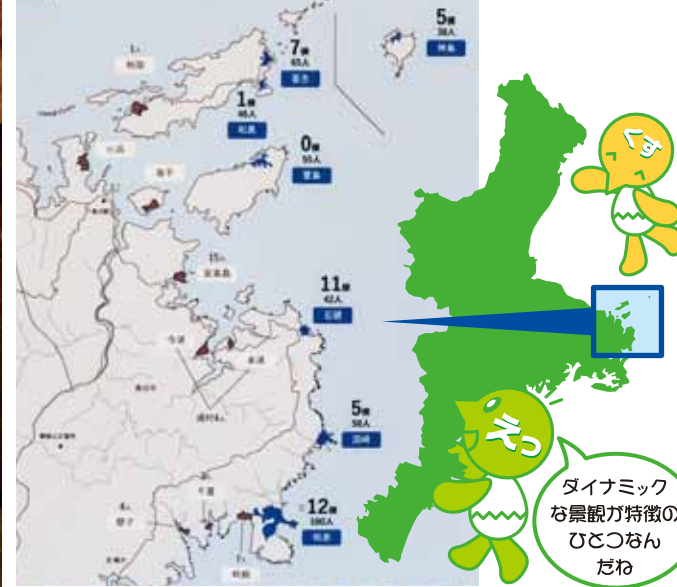
三重県鳥羽市は、全国で最も多く海女が活躍する地域です。私たちは、2018年度から「鳥羽市景観計画」の策定と並行し、「海女集落らしい景観とはどのようなものか？」を課題として、景観に関する調査を進めてきました。対象とした集落は、特に海女が多く活躍する石鏡、国崎、相差、答志、和具、菅島、神島の7集落です。調査では、地形・地質、3,000棟を超える民家の形態・形状、建設時期の古い民家、海女小屋、社寺などの実測調査、公共施設やサイン等の分布や内容の確認などを実施してきました。

3,000棟以上の
民家をチェックした
んだって！



独自の発展を遂げた 海女小屋という景観資源

海女集落にとって海女小屋は重要な景観資源です。海女小屋は、海女が漁の準備をしたり、焚き火をして漁で冷えた身体を温めたりする場所で、7集落で計41棟の海女小屋が見つっています。詳しく調査してみると、大型の海女小屋がある石鏡、シャワー室を付ける国崎、神棚やしめ縄がある相差、床面をパレットでつくる答志など、集落毎に作り方が異なることが分かりました。100年前、浜などで火を囲むだけだったのが、それぞれ独自の発展を遂げているのです。このように、海女集落の景観の魅力を明らかにする研究を続けています。



※海女小屋数は2022-23年度の調査による。人数は2017年時点の海女操業人数

ダイナミックな外海の 景観をもつ海女集落

鳥羽の漁村集落の多くは穏やかな湾内にあり、牡蠣などの養殖も盛んに行われています。一方で、私たちが調査した7つの海女集落は、いずれも外海に面しています。海女さんが多いということは、鮑などの根付資源が豊富であること、それを育む多くの岩礁があることを意味します。波が碎けるような荒々しい岩礁を海岸線にもち、外海に向かうダイナミックな景観には緊張感も。これが海女集落の景観のベースになっていると分かりました。ただし、各集落は異なる地形を持ち、道や建物の配置は様々で、バリエーション豊かな集落景観が展開します。



なぜ独自の
発展を遂げたのか、
みんな考えて
みよう